

「大還暦列車」 未来へ運ぶ

日本大学三島高等学校 新聞部

この夏、私たち新聞部は、伊豆箱根鉄道、通称「いずつぱこ」の各駅に下車し、駅周辺のスポットに出かける旅をした。「いずつぱこ」はさまざまな場所へ運んでくれた。

大仁駅を出ると、目の前に足湯がある。試しに浸かってみると、横に立つ看板に「長嶋茂雄ロード」と書かれている。元読売巨人軍の長嶋茂雄さんは、現役時代の昭和42年から昭和48年まで、旧大仁町で自主トレーニングを行っていた。この事実を、現在、何人の若者が知っているだろう。私たちは、看板を頼りに周辺を歩いた。「いずつぱこ」はいつも、こんな風に、思いがけない場所へ連れて行ってくれる。



看板を頼りに周辺を歩く

伊豆箱根鉄道の前身となる豆相鉄道が120周年を迎え、これまで「いずつぱこ」は変わりゆく沿線地域の景色を車窓越しに語り続けてきた。しかし、私たち高校生は、その20年にも満たない歴史しか知らない。

少子高齢化が進み、通学や日常の足として「いずつぱこ」を利用する学生の数は減っていく。しかし、人々の足だけでなく、地域の歴史を連結し、過去を今に、今を未来へと運んでくれる、地域の『大還暦列車』としてこれからも走り続けてほしい。



日大三島高校新聞部の皆さん

座談会

韭高生に聞く！「いずつぱこ」の未来

県立韭山高等学校 写真報道部

韭山高校写真報道部では、韭高生233人を対象とした駿豆線利用に関するアンケート調査を実施。その結果をもとに、座談会を行いました。その一部を紹介します。

○ 利便性の向上を実感

Aさん 3月のダイヤ改正で17時〜22時の電車が15分おきになり、わかりやすくなった。夜の本数も増えて、帰宅時に助かっているよ。

Bさん 観光客呼び込むためにもICカードを導入して利便性を高めるべきだと思うな。

全員 そだねー。

Bさん でも、エリアをまたいでの利用ができないという現状があるよね。

○ 駿豆線の良さは？

Cさん あまり速くないから、田園風景

を楽しむことができるかな。

Aさん 確かにそうだね。

Cさん 旅という目線から見ると素晴らしい鉄道だと思うな。

Dさん 三島方面から通学している人は、一度修善寺まで乗ってみると違った良さを見つけられると思うよ。

Bさん 運休しない、安定性のある駿豆線は、私たちの生活に必要不可欠だね。

司会 皆さんにとって愛すべき「いずつぱこ」ですね。今日はありがとうございました。

※韭高新聞(平成30年9月30日発行)から抜粋



韭山高校写真報道部の皆さん

いずはニね

ふねあいフェスタ

2018

一年に一度行われる伊豆箱根鉄道グループの感謝イベント。
入場無料で、家族で楽しめます。

とき 11月23日（金・祝）

午前9時30分～午後3時

ところ 伊豆箱根鉄道(株)

本社構内（大場）

内容 鉄道・バス・タクシー車両の展示、ミニ電車運行、電車・バスの洗車体験、移動水族館、鉄道グッズなどの販売、出店

その他 駐車場はありません。伊豆箱根鉄道駿豆線（いずっぱこ）をご利用ください。

伊豆箱根鉄道(株)総務課

☎977・1201

（平日午前9時～午後5時）



特集記事掲載に寄せて

このたびは、三島市・函南町・伊豆の国市・伊豆市の広報紙に当社駿豆線の特集していただき、誠にありがとうございます。

当社は、大正6年（1917）11月5日、駿豆線と、かつて沼津駅と三島広小路駅を結んでいた軌道線、この2つの鉄道線の事業を富士水電株式会社から譲渡され、事業を開始いたしました。おかげさまで、昨年には100周年を迎えることができました。さらに、本年は、駿豆線が開業120周年を迎えるという節目の年ともなります。

地域の皆様をはじめ、ご愛顧いただきましたすべての皆様に、深く感謝申し上げます。

振り返りますと、100年の間には、点と点を結ぶ鉄道から、さらにその先をつないでいくバス・タクシーの公共交通事業などに事業を拡げてまいりました。

もちろん、この間には、昭和33年（1958）に狩野川台風の災害に見舞われるなど苦しい時期もありましたが、そのたびに地域の皆様やご利用いただいているお客様の深いご理解をいただき、今日歩んでいるものと、あらためてここに深く感謝申し上げます。

この節目の年にあたり、社員一同、これからもこの地域の皆様と一緒に歩み、地域の活性化のために力を尽くしてまいりたいと考えております。そのためには、何より安全安心を第一に、これからも皆様から信頼され、地域になくてはならないような存在であり続けよう、決意を新たにしております。

今後とも皆様のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



伊豆箱根鉄道株式会社
代表取締役社長 伍堂文康